

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

**特に注意！（11月）****バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）****クビアカツヤカミキリ**

- ・今後の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆いましょう。
- ・伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

**野菜類・花き類****シロイチモジヨトウ**

- ・例年より発生が多いです。
- ・ねぎ、あぶらな科野菜、豆類、なす科野菜、花き類など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）、プロフレアSC（ねぎ）などを散布しましょう。

**ハスモンヨトウ**

- ・例年より発生が多いです。
- ・なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、ディアナSC（トマト、ミニトマト、なすなど）、コテツフロアブル（さといも、花き類など）、プレバソンフロアブル5（キャベツ、さといも、なす、ピーマン）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布しましょう。

**アブラムシ類**

- ・例年より発生が多いです。
- ・なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、コルト顆粒水和剤（キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、トランスフォームフロアブル（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）を散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



シロイチモジヨトウの卵塊※



ワタアブラムシ※

次回の情報は11月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

## 病害虫の発生予報(11月)

## A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(発生に注意)				

## B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
果樹類全般	果樹カメムシ類				

## C 野菜類

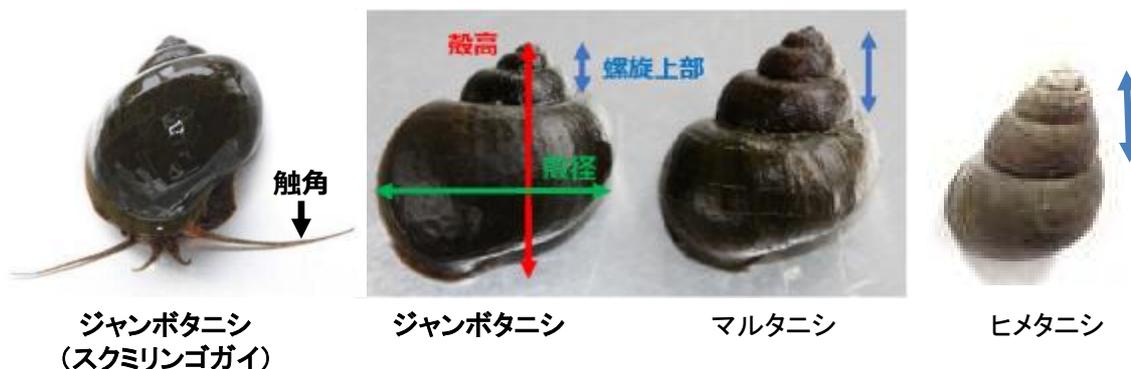
程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり	コナジラミ類				
	退緑黄化病(発生に注意)				
		アザミウマ類			
あぶらな科 野菜	黄化えそ病(発生に注意)				
	根こぶ病				
	菌核病				
	コナガ				

## D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨ トウ	
				ハスモンヨトウ	
	オオタバコガ				
				アブラムシ類	

# 水稻

## ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



### 特徴

- ◆成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。

### 防除のポイント



- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

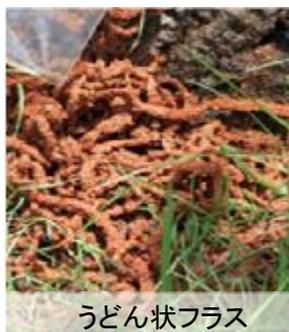
注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」  
についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

## クビアカツヤカミキリ



## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0305kubi\\_aka.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0305kubi_aka.pdf)

- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aroma\\_bungii/Aroma\\_bungii\\_manual\\_R3.3.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aroma_bungii/Aroma_bungii_manual_R3.3.pdf)

## 温州みかん

### 貯蔵病害



緑かび病

#### 特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

#### 防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**（軸腐病、青かび病、緑かび病）や**ベフラン液剤25**（青かび病、緑かび病）などを散布する。
- ◆果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。

## 果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

### 果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

#### 特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

#### 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、**アディオソール乳剤**（かんきつ、かきなど）、**スタークル（アルパリン）顆粒水溶剤**（かんきつ、かきなど）を散布する。

## トマト・ミニトマト（施設栽培）

### コナジラミ類



コナジラミ類成虫※



トマト黄化葉巻病発症株

#### 特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

#### 防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野生生えトマトの除去を徹底する。
- ◆**グレースィア乳剤**、**コルト顆粒水和剤**、**トランスフォームフロアブル**などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## すすかび病



被害葉 表(左)

裏(右)※

## 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどを散布する。

## きゅうり(施設抑制裁培)

## コナジラミ類



タバココナジラミ成虫※

## 特徴

- ◆タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、グレーシア乳剤、ベストガード水溶剤、モベントフロアブル、コルト顆粒水和剤などを散布する。

## 退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉※

## 特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆周辺雑草にも感染するため、除草を徹底する。

## ミナミキイロアザミウマ

ミナミキイロアザミウマ被害葉  
※

## 特徴

- ◆発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフーム乳剤、ベストガード水溶剤、モメントフロアブルなどを散布する。

## 黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

## 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス（MSV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆周辺雑草にも感染するため、除草を徹底する。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

## 根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良\*

## 特徴

- ◆定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

## 防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどでは種前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

## 菌核病



キャベツでの発病

## 特徴

- ◆暖冬時に発生が多い。

## 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

## コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

## 特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、プロフレアSC（非結球あぶらな科葉菜類）などを散布する。

## 野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。  
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

## シロイチモジヨトウ



シロイチモジヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）、プロフレアSC（ねぎ）などを散布する。

令和3年9月9日発出の防除情報「シロイチモジヨトウに注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R3rd/boujvojyouhou/R0309shiroichi.pdf>

## ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC（なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも、花き類など）、プレバソフフロアブル5（キャベツ、さといも、なす、ピーマン）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布する。

令和3年10月11日発出の防除情報「ハスモンヨトウの発生に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R3rd/boujvojyouhou/R0310hasumon.pdf>

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

[http://www.jpnp.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto\\_lpdf](http://www.jpnp.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_lpdf)

## 野菜類・花き類

## オオタバコガ



オオタバコガ幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、きくなど）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布する。

## アブラムシ類



ワタアブラムシ※

## 特徴

- ◆成虫・幼虫とも葉裏に寄生して作物を吸汁し、生育を阻害する。
- ◆排泄物にカビが発生し、すす病の原因となるほか、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、コルト顆粒水和剤（キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、トランスフォームフロアブル（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）などを散布する。